



# 校長だより (職員編)

呉市立市阿賀小学校  
安宗 誠

## 体育(「未来の学び」研究授業)から見えてきたこと

授業における「居場所」について、阿賀中学校区としてどう定義づけるか？このことに迫るために、竹野教授によって示された5つのポイントとそれらのキーワードに基づき、この度の高橋尚也教諭の研究授業を振り返ってみましょう。

### ポイント1 保護者・児童生徒の文化資本を理解できているか？

<キーワード>「人は、会えば会うほど好意をもつ」「人は、その人の外見・態度で判断する」  
授業そのものの構想というよりも、保護者・児童生徒にどう向き合うのかという話。  
阿賀という地域・学校ならではの向き合い方がある。  
<高橋教諭のよさ>子どもの話をじっくり聴く。子どもの様子をじっくり見る。そこから授業を構想した。

### ポイント2 互いに尊敬し合える関係を築いているか？

<キーワード>「認めてくれる社会集団に属してこそ本物の自信になる」→「書かせる指導が大切」  
「迷惑をかけたり、かけられたりする関係を」→「助け合うことの必要性が実感できる場を」「授業を他人に敬意を払う心を醸成する場に！」  
<本授業のよさ>だれもができそうなルールや場を設定した。勝つためには1人欠けても作戦が成立しないような活動を設定した。

### ポイント3 失敗を克服するグループ学習を意図的につくっているか？

<キーワード>「人生は失敗の連続だが、最後が失敗で終わらなければ成功である」→「すぐに成果を求めない授業や活動」,  
「人は物的環境より人的環境(なかま)によって苦しさを乗り越える」  
<本授業のよさ>子ども同士の間人関係性を考慮し、意図的にグルーピングを行った。

### ポイント4 互いに助け合って学ぶ大切さを実感させているか？

<キーワード>「相手に受け入れられる現実検討能力と表現スキルの必要性」「他者の役に立ち、感謝される」→「自分の役割をこなす」「他人の役割を支援する」「グループの目標を達成する」  
<本授業のよさ>ICTによる視覚化と意図的な対話の導入により、グループの課題を見付け、それを克服するための個々の役割、他人への支援の仕方を明らかにしようとした。

### ポイント5 「わかった」「できた」が実感できる授業になっているか？

<本授業のよさ>子どもたちの実態を踏まえて、ルールや場を工夫した。生徒指導の三機能を踏まえた授業設計をした。生徒指導の三機能を効果的に発揮する目的でICTと対話を取り入れた。

### 今後の方向性 特に気になる「あの子」の「居場所づくり」(ポイント2~5)をどのように構想し、その結果どのような姿を期待するのかを今後の指導案には明記してはどうでしょうか？

